報告 2006 年度の MRSA 病院感染症サーベイランス

小林 寛伊

2003 年度よりの MRSA 病院感染率調査^{1~4)}において、“細菌検査結果に基づくラウンド”でサーベイランス(最も精度が高いと考えられる方法)をおこなっていた施設に、継続的に調査用紙を送り、また、新たな協力施設も得て、2006 年度における状況に関し回答を依頼したところ、37 施設より有効回答を得た。その結果は表の通りで、有効回答施設数 37 施設、合計新入院患者 413,312 例に対して、全 MRSA 新感染例は 2,708 例、0.66%であった。全経過における感染率の変化に関して、統計学的検討はおこなっていないが、増加傾向は見られず、ほぼ安定している。英米においては、最近になっても MRSA 医療関連感染症が依然として大きな問題となっている中で、日本における MRSA 感染制御策は効を奏していると考えられる。ここに示された数値を参考として、各施設における MRSA 感染制御策を評価されることが望まれる。

表 MRSA 病院感染症
細菌検査結果に基づくラウンドによるサーベイランス

年度	施設数	症例数	MRSA 病院感染例	
2006	37	413,312	2,708	0.66%
2005	38	431,370	2,896	0.67%*
2004	37	417,041	2,990	0.72%*
2003	41	429,278	3,495	0.81%*
2002	27	283,247	2,391	0.84%*
2001	21	207,575	1,881	0.91%*
2000	14	129,095	1,425	1.10%*
1999	11	105,217	1,216	1.15%*

*：小林寛伊．環境感染誌 2006；21：282．

なお、MRSA 感染症が、病院感染のみならず市井感染としても大きな問題となっている世界の最近の状況から、継続的に全国規模のサーベイランスをおこなっていききたい。調査対象施設数を増やしてより高質な数値を得たく、今後新たにご協力頂ける場合は、メール(hk@thcu.ac.jp)でご連絡いただければ幸甚である。2007 年度の結果に関しては、あらためてご回答をご依頼する予定である。

今年度もご協力くださった諸施設に深謝する。

文 献

- 1) 小林寛伊．メチシリン耐性黄色ブドウ球菌病院感染症発生状況に関する研究．環境感染誌 2004; 19: 401-3.
- 2) Kobayashi H. National hospital infection surveillance on methicillin-resistant *Staphylococcus aureus*. *J Hosp Infect* 2005; 60: 172-5.
- 3) 小林寛伊．2004 年度の MRSA 感染症サーベイランス．環境感染誌 2005; 20: 279.
- 4) 小林寛伊．2005 年度の MRSA 病院感染症サーベイランス．環境感染誌 2006; 21: 282.